

第2回県民会館の整備のあり方に関する有識者会議 議事録

- 1 日 時 平成31年3月25日(月)
午後1時30分から午後3時15分まで
- 2 場 所 宮城県行政庁舎4階 庁議室
- 3 出席者
○出席者(委員): 志賀野桂一委員(座長), 天沼ひかる委員, 片山泰輔委員,
佐藤淳一委員, 佐藤寿彦委員, 中田千彦委員, 樋渡宏嗣委員
(事務局): 後藤康宏環境生活部長, 鈴木文也環境生活部参事兼消費生活・文化課長,
鎌田光昭消費生活・文化課副参事兼課長補佐(総括担当), 金野さよ子消費生活・文化課課長補佐(総括担当), 平泉健消費生活・文化課主幹(文化振興班長)
○欠席者: なし
- 4 議 題 (1) 第1回有識者会議の議論の整理について
(2) 県民会館に求められる機能と立地条件について
- 5 配付資料
<資料一覧>
資料1 第1回有識者会議の議論の整理・・・・・・・・・・・・・・ P. 1
資料2 現在の県民会館の主な課題解決の方向性・・・・・・・・・・ P. 5
<参考資料一覧>
参考資料1 仙台駅周辺の主要ホール施設位置図と県民会館・・・ P. 7
参考資料2 県民会館大ホール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 9
- 6 概 要
(1) 開 会
(2) 挨 拶 環境生活部長 後藤 康宏
(3) 議 事
(4) そ の 他
(5) 閉 会

7 議事内容

有識者会議は、県民会館の整備のあり方に関する有識者会議設置要領第4条第2項の規定により、座長が進行することから、座長に選出された志賀野桂一委員が議事進行を行った。

はじめに事務局から配付資料の概要を説明した。

【事務局 鈴木消費生活・文化課長】

それでは、まず、第1回有識者会議の議論の整理について、御説明いたします。

「資料1」を御覧ください。

第1回目の有識者会議では、「県民会館の整備のあり方」をテーマに、様々な御意見を頂戴いたしました。その議事録を精査し、全体で47件の意見として抽出・整理したものが、この資料となります。

整理の区分としましては、1として、「現県民会館の課題に関する意見」、2として、「県民会館の整備に求められる基本的な方向性、機能等に関する意見」に分け、2の基本的な方向性、機能等に関しては、更に10項目に分けて、整理しております。

まず、1の「現県民会館の課題に関する意見」ですが、「オーケストラピットの問題」や、「舞台の狭さの問題」、「ホール裏側のアメニティ環境が整っていない」、「楽屋や廊下の広さを確保するためには、相当な敷地が必要となる」、「トイレが少ない」、などといった現県民会館が抱える様々な課題のご指摘をいただきました。

次に、2「県民会館の整備に求められる基本的な方向性、機能等に関する意見」の、まず(1)ホール需要等については、「東北地方全体の需要を考慮して、地域の要となる新しいホール施設が必要である」、「ポピュラー音楽のライブが非常に好調であり、観客の動員数の底上げにつながっている」、「ライブを通じた交流人口が今後も増えていく」、「集客効果を県内だけを範囲として考えるのか、県外からの交流人口を増やすのか、という視点で考えなければならない」、「演劇活動ができる場所が少ない」などといった御意見をいただきました。

次に(2)整備の方向性については、「2千席規模のホールを今の敷地につくるのは難しい」、「2千席規模のホールだけでなく、複合的な機能を考える必要がある」、「ホール施設に求められる機能を備え、かつ商業的な要求にも応えられるホール、人材育成など、市町村への支援機能を持つホールを整備する」、右上の③でございますが、「自主制作主体のホールであれば、相当なスタッフが必要になる」、「誰のためにつくるのかが重要」、「今、不足しているものを充実させて、やりたいことをどう選んでいくかが重要である」、「コスト意識を持ち、引き算で考えること

も必要」といった御意見をいただきました。

次に（３）ホールの規模については、「ホールの規模，キャパシティが多いほど集客力につながる」，「施設の規模，大きさは何のために必要なかを明確にすべき」，「小規模ホールも併設すれば，利用者にとって施設としての選択肢も増える，そのための敷地の確保が望ましい」，「同じフロアの中に必要な機能が全て備わっていることが大事な観点となる」，「ホールを使って将来的に何をするのかによって規模などが大きく左右される」といった御意見をいただきました。

次に（４）広域性については、「地域の境界を取り払った形での事業展開が必要である」，「国内外からの集客効果を意識すべきである」といった御意見をいただきました。

次に（５）開放性については、「市民の多くの人たちに開かれた場所であること」，「広がりがある中で持続性を持っていることが重要」，３ページをおめくりください。左上の④でございますが，「ホールに集まる人々が交流し，体験を通して新たな何かが生まれる施設」，「県民が繰り返し施設を楽しめるような施設にしてほしい」といった御意見をいただきました。

次に（６）市町村連携・人材育成については，「市町村のホール施設を担う人材育成の場として機能を果たす」，「ハード面での整備検討と併せて，スタッフ配置のイメージを持つべき」，「市町村との間で県民会館を活用したネットワークのハブ機能を持つべき」，「ホール・劇場をベースにして，実演芸術を担う人材を育てて社会に送り出すことができるよう，ホール・劇場のあり方を考えるべき」などといった御意見をいただきました。

次に（７）役割分担については，「複数のホールで機能分担を図り，県全体として構成することで，文化振興の底上げにつなげる」，「県と仙台市の間で役割分担を図ることが必要」といった御意見をいただきました。

次に（８）技術革新対応については，「変化に対応できないホールは，使えないホールになってしまう」，「テクノロジーの進化に対応していくことを前提に整備を検討していく必要がある」などといった御意見をいただきました。

次に（９）右側の現地建替については，「現地建替ではダウンサイジングにならざるを得ず，県の拠点文化施設としての命題とは異なる」，「現在地で必要なキャパシティや機能も盛り込もうとすると，相当厳しいのではないか」，「現県民会館は老朽化が著しく，これに手をかけ，お金をかけてというのは，あまり有効なことではない」などといった御意見をいただきました。

最後に（１０）これまで培ってきた機能の継承については，「建物の趣や，佇まいを継承していくことも意味がある」，「現在地がどうなるかも大事な要素である」，「これまで培ったことを踏まえて，新たな県民会館を整備すべき」，「劇団四季のロ

ングラン公演を今後どう活用していくか」などといった御意見をいただきました。

これらいただいた御意見を踏まえまして、次に、事務局で整理しました、「現在の県民会館の主な課題解決の方向性」について御説明いたします。

「資料2」を御覧ください。

左側の種別の欄に、「現県民会館の課題」というものがございます。その内容として、まず、「敷地が狭く資材搬入が困難である」、その下には、「経年劣化による建物、設備の老朽化」、「舞台の奥行きなどのスペースが不十分であるなど、利用者にとって使いづらいこと」、「オーケストラピットの問題」、「座席や通路が狭い、トイレが少ない」、「ロビーやホワイエが狭いことなど、来場者のアメニティの課題」、「現地建替の場合、約4年間の長期休館が見込まれること」など、7項目の課題を挙げさせていただいております。

これらの課題解決の方向性につきましては、右側に整理してございますが、それぞれ、「大型トラック等が敷地に乗り入れられるバックヤードを整備する」、「最新設備の導入のほか、テクノロジーの進化を見据えた更新計画の策定」、「メンテナンス性の確保、利用者の使いやすさを考慮した舞台及び付帯設備の整備」、「オーケストラピットの自動化」、「快適な鑑賞機会を提供するための座席や通路の仕様の見直し」、「ロビー・ホワイエの拡大」、「県内、特に仙台市内のホールと連携した対策が必要」などとしております。

次に、「ホール需要等」の項目では、内容としては、「ホールのキャパシティが集客力、交流人口の拡大につながることも踏まえた施設規模とすべき」というもので、その解決の方向性としては、右側でございますが、「2千席規模程度のメインホールの整備を図る必要がある」としております。

次に、「整備の方向性」の項目では、内容としては、「県内市町村にはない機能を持ったホールや、機能の異なる複数種類のホール・劇場を整備すべき」というもので、その解決の方向性としては、右側でございますが、「市町村のホールを補完する機能を持った、複合的な施設の整備を図る必要がある」としております。

次に、「開放性」の項目では、内容としては、「ホールに人々が集い、交流や体験を通して繰り返し、楽しむことができる施設を整備する」というもので、その解決の方向性としては、右側でございますが、「人々の交流の拠点として、地域の発展や、国際文化交流を支える機能を持った、施設整備を図る必要がある」としております。

最後に、「市町村連携・人材育成」の項目では、内容としては、「人材の育成や交流の機会を設けることが必要であり、専門的人材を配置すべき」、「市町村との間で県民会館を活用したネットワークのハブ機能を持つべき」というもので、その解決の方向性としては、右側でございますが、「専門的能力を有する人材の配置が必要

であり、そのような運用体制を前提とした施設整備を図る必要がある」としております。

以上、事務局で検討しました「現在の県民会館の主な課題解決の方向性」について、御説明しました。よろしく御意見を賜りますようお願い申し上げます。

【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。ただいま事務局から説明がありましたが、初めに資料1「議論の整理」に関する確認、補足、あるいは前回の会議で話の出なかった機能面での御意見、御提言があれば、お一人ずつ伺っていきたいと思いますが、よろしく願いいたします。

【天沼ひかる委員】

1回目の会議に出席して、その後改めて資料等を見直してはみましたが、今もちろん細かく課題は出ていますけれども、将来のことを考えて全てを整備していくことが重要ですので、基本的にホールが貸館だけではなく、こういった機能として、そこを使って、何をしてまちの発展につなげていくのか、という点をもう少し描けたらいいのではないかと考えています。

今の県民会館ですと、50周年を迎えて建っているということで、舞台の機能を含めて安全面ではすごく不安なところを多く抱えていると思いますので、例えば4年間閉まって使えない人が出てくるなど、市民の方に少し不便をかけるといった問題はありますが、大きく考えていかななくてはいけないと思いました。

ここに書かれておりますそれぞれの課題については、まさにそのとおりでございまして、特に劇場の中で行われることに関しては、例えば音楽が中心に述べられることが多いようですが、ほかにも様々なものがございまして、そういったものを誰が、どのような団体が主催者として展開していくのか、そこに一般市民をどのように絡めていくのか、といった点を発展させていかなければならないのではと思っています。

取りとめのないところで申しわけありません。

【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。資料1について、つけ加えるところは、機能面ではないということでした。そして、何のためにつくり、また、ソフト面のことも考えていかなければいけないということでした。

それでは、佐藤淳一委員、お願いします。

【佐藤淳一委員】

私も、前回の会議の時には、本当に2千人規模が2つ必要なのか、というところから話をさせていただいたのですが、この土地に2千人規模のものが2つあったと

きに、それぞれが活かされる形はどういう方向なのかということを考えて、この1か月過ごしてまいりました。

そこで、うまく棲み分けできるような形を探れたら一番いいですし、それぞれが一体何をするのかをこれから具体的に考えていかなければならないと思います。

そして、この場での話になるかは分かりませんが、どのくらいお金が使えるのかを考えずに理想的なことだけを言っていいのか、といったことなども念頭に置きながら、これからの話に臨んでいかなければいけないと思っています。

【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。市町村、特に市との棲み分けをどのように図るのか、そこに、費用対機能面のバランスという観点も入れていただければいいということでもございました。

それでは、中田委員、お願いいたします。

【中田千彦委員】

私は、この建物は今訪ねても非常に感慨深い、感動する空間だと思っています。そういった、市民・県民の心の中心になるような施設が宮城県の仙台市の中心部にあって、特に定禅寺通は、様々な経過がありました。今は文化活動の中心として発展をしていく中で、このようなコアになる、芯になるような施設が、エンターテイメントや市民活動、県民活動を鼓舞するような機能を持っているということは、非常に都市としての理想に近いと思っています。

一方で、このお預かりした資料を見ますと、1千5百席の規模で今は敷地いっぱいには大ホールが1個だけ入っていて、実際に使ってみると椅子も狭いし、膝先が本当に狭い。それから、バックヤードのことも考えると、あの場所に2千という数の座席とステージは物理的に難しいと思います。一方で、都市の中心ということ考えると、高層化して建築することも可能だとは思いますが、高度な技術を駆使してあそこに2千席のホールをつくるというのは、かなり難儀なことだと思っています。

しかし、あそこが都市の生活にとって非常に重要であると考え、もし仮に県民のホールがあそこではないところに建てられるとしたならば、あそこの空白をどのように埋めていくのかということ是非常に大きな意味があつて、あそこからどこかへ移転してしまったからいいのではなく、あの場所がどのように連動して使われていくのかという点が非常に重要な話題になってくると思います。

そのようなことが、実はこの整理の中で行間に潜んでいるのではと思ひ、先程のお話をお聞きしました。具体的に資料として様々な要点にまとめられていると思いますが、プログラムとしての意味をこの資料の中から読み出して、次のステージに話を展開していかなければならないと思いました。

【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。まとめますと、建物のシンボル性、そして定禅寺通という場所の重要性というのを御指摘いただきました。

建築的には、現況の中で2千席を積んでいくことが、技術的に可能かもしれませんが相当困難なので、今のところ移転を想定すると、現況の県民会館の場所がどうなるのかという点が押さえられている必要があるのではないか、という御意見だと思います。

樋渡委員，お願いします。

【樋渡宏嗣委員】

特に、これに関して補足することはありません。

【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。

それでは、佐藤寿彦委員，お願いします。

【佐藤寿彦委員】

事務局でまとめられた資料は、よくできていてすごくすっきりしていると思います。恐らく、日本全国にあるハコモノ（会館）と言われているものは、この資料がとても参考になると思います。資料に書かれてある状況は、現在の宮城県民会館に限ったことではない、と資料を拝見したときに改めて思いました。

現在の宮城県民会館ですが、あの場所で現在の収容人数以上の会場をつくることは不可能だと思います。建築基準の問題や、近隣の環境の問題などで、あの場所で建て替えるとなると、恐らく、1千3百とか1千2百席ぐらいのキャパシティになるのではないかと思います。ですので、交流人口を増やす、多くの県民の方々が新しい会館に足を運ぶといった様々なことを想定するのであれば、別な場所で作るしか方法はないと思います。

キャパシティに限れば、3千人だろうが、2千人だろうがコストの問題です。仮にキャパシティ3千人の会館をつくっても、稼働率は東北6県でナンバーワンの数字をたたき出すと思います。せっかく宮城で新しい会館の建設をトライするのであれば、青森市文化会館が建設当時は2千1百ぐらいだった（現在は大規模修繕後で2,031席）と思いますので、それを1席でも5席でも上回ったほうが良いと思います。東京のプロダクションの方や演者の方々から、「東北で一番大きいところはどこですか」という質問があります。僕は「青森です」と答えています。個人的には青森市文化会館を上回るキャパシティがあったほうが、色々な意味で良いと思います。

繰り返しになりますが、この資料は本当によくできていると思います。恐らく、他県や色々な場所の新しい人々が集まる会館づくりの参考資料になるのではないかと思います。以上です。

【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。まとめについては異議がないと。

【佐藤寿彦委員】

1個だけ。すみません。

【座長：志賀野桂一委員】

はい。

【佐藤寿彦委員】

宮城，東北は地震や津波がある地域です。有事になった場合に県民の一時避難ができたり，地域住民や帰宅困難者を受け入れるような場所といったハード面，ソフト面も考えた設計を，建てる場合にはぜひお願いしたいと思います。以上です。

【座長：志賀野桂一委員】

災害対策に考慮というところもプラスということでございます。

それと，ほかとの差別化，キャパシティのことで1席でも多くという話がありますが，サントリーホールとオーチャードホールのかつての1席の争いの話を思い出しましたが，そういった点もどこかでは必要ということですね。青森には勝ちたいということですね。

片山委員，いかがでしょうか。

【片山泰輔委員】

前回のまとめのところで，仮に自主制作をするのかどうかということを発表させていただきましたが，その後，県の文化芸術振興ビジョンなども見させていただきましたところ，宮城県の場合には必ずしも，基礎自治体ができない広域自治体としての機能として県自身が，全国レベル，あるいは世界レベルの創造を発信することを目指してはいないということが分かりました。したがって，大きなホールについては，基本は貸館のためにつくる。兵庫県や滋賀県などとは違うのだろうと思います。要するに，びわこホールや兵庫県立芸術文化センターとか神奈川芸術劇場のような創造発信を自らやるというものではないということだと思います。ですので，ほかにそのような機能の施設がないということであれば，県がきちんとポピュラー系とかを，東北の拠点としてホストできるような機能を備える貸館に徹するのがいいのではないかと思います。

一方で，県の機能として，県立の劇場として基礎自治体設置のホールなどのハブになるということは必要なので，そのための機能というのは中規模のホールや小規模のホールなどを通じて持つ必要はあると思いますが，大規模のホールの性格としては，前回は仮にと言いましたが，県の文化芸術振興ビジョンを見る限りは，貸館中心というのが理にかなっているのではないかと思います。

それから，県でまとめた資料を拝見させていただいて，ちょっと気になった表現ですが，一番下の「市町村連携・人材育成」の部分で，私の発言とも若干絡んでいるところですが，下から2つ目のハコのところ「教育普及を目的とした専門的人材を配置すべき」とあります。基礎自治体設置のホールの人材育成に関しては，も

もちろん教育普及を担える人材を育てることも大事な機能ではありますが、それに限らず、基礎自治体設置のホールで行うべきことをできるような専門人材を育てるための機能ということです。したがって、この「教育普及を目的とした専門人材」では、教育プログラムをやる人ということになってしまいますので、ここの表現は改めたほうがいいのではないかと思いました。以上です。

【座長：志賀野桂一委員】

今はちょっと、資料1を議論しているのですが。

【片山泰輔委員】

すみません。今、資料2に触れてしまいました。

【座長：志賀野桂一委員】

資料1の議論で片山委員のお話を復元しますと、ホールスタッフ等の専門人材、人材育成、これをどのような基本姿勢でつくろうとするのかという点を定めておかないと、例えば自主制作となったらもう相当なレベルで、いわゆる片方でその極端な例で言えばオペラハウスがあるわけでございます。そこにはもう専門の人材は全部揃っているわけですね。そういったものの中間的なものとして、日本における創造館と言われるところが全国的には相当出てきているわけですね。そのようなものにトライするのকাশないのか、これはやはり大きな目標値のところでの違いになってくると思います。今、片山委員のおっしゃったことは、もう少し貸館に寄った形で、しかしながら県の中心施設として、色々な技術者の専門集団などが必要なわけで、あるいは市町村にない、不足しているそのような人材を育成する機能というのも、当然のことながら最低限求められると思いますが、そういったところにとどめる、そういうお話として受け取ってよろしいでしょうか。

それでは、機能という点での資料1に関してはそのようなことですがけれども、私のほうからちょっと確認で言っておきたいことがあります。要するに2千席のホールを前提にして、今の県民会館の中で機能を展開できるかどうかという判断が大きな議論として一つあります。それで、一つ出た議論の中で、ダウンサイジングすれば、あるいは佐藤寿彦委員からも出た1千3百席程度の設定であれば可能かもしれないという話もありますが、それはこの有識者会議の前提にはないと考えてよろしいですね。そこをまず決めておかないと、そういうのに戻っていく可能性もあるので、そこだけちょっと確認しておきたいと思います。

【事務局 鈴木消費生活・文化課長】

基本的には、これまでの需要調査の結果を見ましても、需要として2千席規模は確保したい。それから、本日の資料1の中でも意見として整理させていただいた部分がありますが、県の拠点施設として整備するに当たりましてダウンサイジングでいいのか、そもそもの県の拠点文化施設としての命題としては異なるのではないのかという御意見なども頂戴しておりますので、2千席規模のホールを整備する前提

で御議論いただければと考えております。

【座長：志賀野桂一委員】

ということですね。この有識者会議に与えられた命題としては、そこから出発しているということによろしいと思います。

では、それを確認した上で、資料2についての御議論をいただきたいと思います。問題解決の方向性ということで皆様方からも御意見を賜ったわけでございますけれども、ここで専門の立場から中田委員に、資料2についてのコメントも含めてお話しいただければと思います。よろしくお願いたします。

【中田千彦委員】

資料2の整理の中で幾つか、建築の構造的な、または法的な部分の制限も考慮しながら議論をしなければいけない部分があると思います。特にあの場所周辺が、道路と極めて隣接した建物、それから一方は非常に細い通路のような道路になっているということで、その中に2千席のものをつくろうとすると、先程佐藤寿彦委員からお話がありましたが、現状に2千ではなくて、それに対して大体20%から40%増しぐらいの体面積が必要になってくると思います。そうすると、あの面積いっぱいが席とステージになってしまって、通路とか動線がなかなか確保できない状態に近づいてしまうのではないかという危惧は、単純に計算すれば見えてくると思います。

一方で、その分を高層化して建てていくということも技術的にはあり得る話だと思えますが、建物を上に積むと結果的に下から上に物を運ぶ動線が必要になってきますし、デパートですらエレベーターとエスカレーターがかなり縦横無尽に動いている中で、大きな仕掛けですとか、搬出した機材を必要なところにリフトで上げるとかそういったことも出てくると、その縦動線から周辺の設備関係の容積がかなり大きな面積、体積を食ってくることは明白だと思えます。

そうなりますと、かなり高度な設計をして苦勞をしてつくったとしても、我々が今議論しなければならぬスペックの県民会館になり得るかということとはかなりハードルが高くて、チャレンジして建築的な意義を問うていくということとはあり得ると思えますが、そこは本来の県民会館のあり方の主題ではないような気がします。それにチャレンジして非常に喜びを感じる建築家もいると思えますが、そういうところとは少しパラダイムが違うようなところがあると思えます。

一方で、あそこのキャパシティが十二分に使い切れるかどうかということ以上に、本来県民のホールとしての役割や担うべき部分を、私たちが今現状の課題認識以上にもう少し広がりのあるものにして、少し余地を持って可能性のある建築の議論をした方が、今後の未来にとって非常に重要なことになるのではないかと感じております。

そういう点からいいますと、今の場所というのは非常に素晴らしいところだと思いますが、今議論すべき県民会館のあり方からすると、あそこで意地になって建てるということは、将来において否定的なことになってしまわないかという気がして

います。ただし、建築というのは非常に可能性があるものなので、難しい課題にチャレンジすることはできると思いますが、そこは現状と、それから将来の県のビジョンというのを俯瞰的に見て、きちんと議論すべきことかなと思います。

【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。全体的に縦動線というお話をいただいたと思いますが、そこで高層化した時に相当無理ではないか、というようなお話もいただきました。

では、委員の皆様方にこの資料2を御覧いただきたいのですが、最初の県民会館の課題、7つあります。この7つについて先に議論したいと思いますが、ここについて何か御意見のある方はお願いしたいと思います。はい、どうぞ。

【天沼ひかる委員】

私は横須賀のほうから来ていますので、地元のことはほとんど知識がないし、情報も得ていないということでお聞きいただきたいのですが、県民会館は一度その表と裏とを見学させていただいて、2千席ということが前提でありますと、やはりお客様は劇場の中に一回入ったら、外に出てきた時にはほとんど客席の中に残っている人とロビーにいる人ということで、建物の中に入っているべきものだと思います。それが、20年ぐらいしか劇場の仕事をやっていない私でもちょっとこれは空間として狭いだろうと思いますし、皆さんがおっしゃっている人々が集う場になれば、やはり劇場に入る前に例えば広い広場があって、さらにそこに建物があって、その中に色々な機能があって人々が集う。外でも中でもというものが一番理想的で、実際、日本中に今色々な劇場がたくさん出てきて、高く積み上げている劇場もあれば、敷地に余裕があるところであればそのようなスペースを持って建てている劇場も実際に実現しております。そのようなものを参考にするとすれば、今抱えている問題自体はそのままだったら本当に解決できないことだと、シンプルに私は判断いたします。

それで、催し物や色々なことをやりたいということから考えると、舞台設備というのは、もちろん予算のこととか色々ありますが、可能な限り大は小を兼ねるといようにしておくことが、可能性を広げるということでも非常に大事なことで、そのような観点で考えていければいいと思っています。

トイレのことや、バリアフリーのこと、バリアフリーがこれだけ素晴らしくできてきているおかげでお客様も、色々不自由がある方でもお越しいただけるような状況が本当にどんどん出てきております。そういった方々が、舞台上で演じたりといった取り組みも増えてくる中で、舞台裏のバリアフリーが進んでいる劇場も今出てきておりますので、これからつくるといふことであれば、そういった点も含めて、できる限りのことができているということがいいと思います。

【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。7つの課題の中で、今は3、5、6の課題ということでお話をいただいたと思います。加えて劇場空間の外の空間、これも併せてお話し

やっていたかだと思います。例えば、幕間で中にいる人が全員ロビーに出ても、ちゃんとそこが賄えるキャパシティが必要だとおっしゃっていたわけですね。

【天沼ひかる委員】

ほぼですね。100%ではないですけども。

【座長：志賀野桂一委員】

そういうことが今の新しいホールのあり方かと思いますので、そこで色々な交流がお客さん同士であったりするという状況でございますので、今の県民会館はそれがないという話だったと思います。

そのほかございますか。はい、どうぞ。

【佐藤淳一委員】

この課題の5つぐらいは、オペラをやるときに毎年困っていた部分になります。ここでやるときに、大道具の搬入、オーケストラの楽器のために11トントラックが何台も入ってきまして、ショーの方はもっと多いというお話もこの間あったかと思っておりますけれども、それを停めるスペースがないこと。また、舞台の奥行きその他、スタッフの方がかなり大変な思いをして舞台転換をしてくださっていること。オーケストラピットのことは今までも話がありましたが、その幕間に、トイレが少ない分、休憩時間を長くしなければならない。その長くしなければならない時間分、何か飲み物でもというスペースをつくるのですが、ロビーその他が狭いのでごった返すようなことになって、なかなかいい環境で休憩時間を過ごしていただけないといったことが今までずっとありました。そのようなことを考えますと、今の敷地の中に2千席をつくらうと思ったときには、かなり無理があると思います。

実は1989年に私たちオペラ協会が県民会館でオペラをやったときに、ゲネプロのときに火が出ました。我々は失礼ながら「火事カルメン」という言い方をさせていただいておりますが、ゲネプロの最後15分の中で、吊っているバトンに付着している綿ごみに照明の加熱で火がついて、火が天井まで走って、スプリンクラーが作動して緞帳をおろして、何とか延焼が収まった。あの時もお客さんがいたらと考えると本当にぞっとするといえますか、私も消火器を持って階段を駆け上ったりしたのですが全く無駄でありました。そういったこともあるので、やはり手狭のスペースではなく、お客さんが色々なところから逃げられる、出演する人たちも逃げられるという空間は、常に考えておかなければならないと思います。

そういうことも考えると、2千席をつくることは色々知恵を絞って可能かもしれないというお話もありましたが、そのような空間を確保しておくことはすごく大事なことだと思っております。

【座長：志賀野桂一委員】

わかりました。今は課題の7つの中の1, 3, 4, 6ということでございました。それと、1989年の「火事のカルメン」、私が担当しておりました、その一晚、

県民会館に泊まった思い出をよみがえらせていただきました。恐ろしかったですね。そういうこともあります。これは舞台の奥行きにも関係すると思います。火事の出火原因はいまだに出ていませんが、いわゆる明かりを隠す幕があって、それと明かりのピッチですね、これの狭さというのが一つの原因だったように思われます。

ですので、やはり舞台の奥行きは大事なポイントであると思われたいと思います。

この7つの課題については、よろしいですか。トイレは、改めて課題の解決策には何も書いていませんが。

【佐藤寿彦委員】

数を増やせばいいと思います。数を増やすだけです。

【座長：志賀野桂一委員】

増やすだけということでございます。

【佐藤寿彦委員】

課題は、もう大体出ているのではないですか。

【座長：志賀野桂一委員】

では、この7つの課題については、今のような御議論でございました。

それでは、次にまいりたいと思えますけれども、ホールの需要等と整備の方向性の2つに関して少し御議論をいただければと思います。

一つは、東北地方全体の要となるホールの整備ということと、市町村ホールの補完ということで括られている場所でございます。これについて何かございせんか。はい、どうぞ。

【佐藤寿彦委員】

何度か発言して同じようなことを申し上げるかもしれませんが、やはりコストの問題だと思います。我々の業界からすれば、ライブを開催する際にキャパシティを考えて、どれだけの収入と支出があるかを考えます。

現在、ポップスのジャンルでは、日本全国のライブの売上がこの10年間で3倍くらいになっています。また、スポーツ団体と我々の音楽業界でコラボレートして色々なことをしようとか、新国立競技場でこけら落としのライブの話など色々な動きがあります。もちろん、新しい県民会館の需要は宮城県においては何の問題もないです。

現在、日本全国で会館をつくる際、キャパシティ2千席というのは流行りのようになっています。隣の山形県や秋田県でも、県民人口が宮城県に比べれば随分少ない県ですが、両県とも2千席の新しい会館をつくります。日本全国で2千席の会館づくりが流行りになっていると言っても過言ではありません。それは設計士さんなのか、ゼネコンさんなのか、議会なのかという根拠で金太郎飴のように2千席に

なっているのか僕もよく分かりません。そういう括りではなく、本当に歳入と歳出がどうなのか、30年後、50年後につくって良かった、歳入もこんなに増えたとか、交流人口が増えて良くなった、といった観点から宮城の県民会館をつくるのがいいと思います。ですから、キャパシティが3千席だろうが、2千8百席だろうが、2千5百席だろうが何の問題もありません。仙台市の新しい会館も2千席という話が出ています。流行りかもしれませんね。

それと、課題から離れるかもしれませんが、今週末弊社は、サザンオールスターズ40周年ライブをグランディ21の体育館で2日間行います。観客は1日約9千人入る予定です。チケットは即日完売です。なぜ我々は人気のあるアーティストのライブを体育館で行うのかと、先程皆さんのお話を聞いて考えていましたが、我々やっているポップスやロックといわれるジャンルで人気のあるアーティストは、県民会館クラスではお客さんを収容し切れなくなりました。ですので、もっと広いところはないかと検討した結果、体育館があるじゃないかということで、体育館ライブが20年～30年前から開催されるようになりました。体育館ライブには11トントラックが30台～40台走ってきて、機材を降ろして組み立てて、ライブ終了後に機材をばらしてトラックに積み込んで、次の公演地に行くということを繰り返しています。要するに、雨風をしのぐ建物があって、電源があればライブができるということです。今、日本全国でそのようなアリーナライブと呼ばれているコンサートがたくさん行われております。

今年、アメリカのウッドストックという世界で有名な野外フェスが50周年を迎えます。欧米では需要にあった建物や施設がない場合、野外でやればいいじゃないかみたいな形で、数万人、数十万人集めるような規模でやったライブが今、日本でも流行っています。弊社でも今月末に宮城県川崎町で、平成最後の大規模野外ロックフェスを観客6万人規模で開催します。経済効果も数十億円と聞いています。

繰り返しになりますが、新しい県民会館は何に使用してもらうかを定めることだと思います。個人的には、歳入を増やすような会館づくりが本当に大事なのではないかと思います。以上です。

【座長：志賀野桂一委員】

ここで設定されている命題は、2千席のホールというか、今ある県民会館のモデルというか、それをベースに考えていこうということです。少し大きな議論になっているかと思います。それはそれとしてという整理かと思いますが、それによろしいでしょうか。

【佐藤寿彦委員】

コストの問題で、2千5百席でも2千8百席でも構わないと思います。

【座長：志賀野桂一委員】

ちなみにちょっと申し上げておきますが、日本とかヨーロッパは1千席以上が大ホールという設定ですけれども、アメリカなんかですと2千席超が大ホールという

言い方をします。そういう違いはあるので、2千席と言えば大ホールの仲間入りとか、アメリカも含めてワールドスタンダードではあろうかと思えますけれども、それが3千席とか4千席になるとまた別な話になってきますので、これはこの県民会館の議論からはちょっと置いておこうと思えます。そうしないと相当別な議論になりそうですので、そのように整理させていただきたいと思えます。

片山委員，何かございますか。

【片山泰輔委員】

いいえ，大丈夫です。

【座長：志賀野桂一委員】

では，次の開放性と市町村連携・人材育成というところで，先程片山委員からお話がありましたけれども，もう一度お話をいただけますか。

【片山泰輔委員】

2012年に制定された劇場法の中では，地域の拠点となる劇場，音楽堂は，十分な機能を持っていない施設，具体的に言えば小規模な基礎自治体が設置したような劇場，音楽堂等の人材育成を担うということが位置づけられていますので，県が新たに施設を整備するのであれば，そこが県内の基礎自治体の施設の職員の育成の場として機能することが，非常に重要なことなのではないかと思えます。県内でも，えずこホールのように，自前で相当やっているところもありますけれども，全体を見ればまだまだそうではないと思えますので，そういう人たちを研修生として受け入れる，あるいは共同制作をして学ぶ機会をつくるとか，そのような機能を持つことをぜひ考えていくべきだと思えます。

一方で，先程貸館中心の大ホールという話をしましたけれども，そこである程度収入を得ながら，どちらかと言えば持ち出しの事業として県内の人材育成などに努めるという両方の機能を持つと，県民全体への還元という形の施設になりやすいのではないかと思いました。

【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。これは私も，座長ですが少し意見を申し上げたいと思えますけれども，公文協などの集まりの中では，県民会館がヘッドクォーター的な役割を果たすことが多いわけです。やはりそれ相応の人材を持ち，人材育成をできる中心センターだと思います。自主制作を主にやるというよりは，そういうことも含めて一応考えておく必要があろうかと思えますので，そのためにはとどころでやはり施設も少し必要になります。そのためのということは，建築的な要素にも入ってきますので，その点はお考えいただいたほうがよろしいのではないかと思えます。これは私の意見ですけれども。

これについて，何かありませんか。

【中田千彦委員】

ちょうどこの開放性のあたり、それから少し需要等との関係も出てくるのかもしれませんが、佐藤寿彦委員がおっしゃるように、仙台というのは相当規模のショービジネスやエンターテインメントの需要が十分にあって、それを引き受けるキャパシティの一つとしてこの県民会館を考える。そのような需要があるということに頼ってお話することになるかもしれませんが、2千席規模ということが、色々な計画上の臨界点になっているような気がします。ファシリティーマネジメントという部分でも、それからローテーションということでも、そのあたりがハンドリングしやすい規模として一つのベンチマークになっているのではないかと思います。それは少しきちんと検証して、その妥当性を考えていかなければならないと思うところもありますが、そうするとその3千席とか4千席とか数万という規模との意味の違いというものが出てくると思いますし、その意味の違いを捉えてホールの規模が設定されていったときに、そのホールがどういう社会的な役割を担うのかということがあって、その社会的な役割を担うというところの一つの重要性は開放性だと思います。

それで今の建物を見ると、外の通りに列をなして、ゲート、扉が開いたら切符をもぎって、そのまま客席に長い階段を上がってなだれ込んでいって、見たいものを見て、多少トイレも我慢して、そして終わったらさっさと帰るといような、昔の映画館みたいなやり方になっています。そのようなビジネスモデルが、長い時間かけて随分と変わってきていて、それでよく言われる開放性というのは、先程のお話にもありましたように幕間に少しゆったりと余韻に浸ったり、シャンパンを傾けたり、当然お手洗いにいく時間というのも出てきますけれども、そういった部分での本来の客席とステージという必須の機能ではない部分の余白といいますか、マージンの部分が建築的には非常に重要な部分になってきていることは、もうこの数十年言われてきていることだと思います。

それは、特に海外のホールとかを参考にすれば、そういう社会性、社交性というものが文化を育てることの重要な要素になるということが検証されてきていますので、それはすごくわかりやすいと思います。一方で、これから考えるホールというのは、単にそういったマージン、余白があって、そこで楽しみが増えるということではなく、そこに直接関係ある人もない人も、演劇とか歌謡とかに直接お金を払って来ている人も来ていない人も、その場所に同席する、共存することによって、新しい文化的な刺激をお互いにやりとりをしながら、都市というものの文化を盛り上げていくというような一つの機運がある中で、先程ちょっとスポーツ関係とのコラボという話がありましたけれども、そういったウェルネスという概念は非常に今大きくなっていて、そういったことをきちんとその周辺の空間ににじみ出していくながら、演劇のようなエンターテインメント等の場面ときちんと調和していく、または刺激し合っていくような空間性というものが、もう既に世界各国では始動していると思います。

それで、日本でも20世紀の終わりに建てられた非常に有名ないいホール、20世紀のエンターテインメントの時代を締めくくるには非常に重要な建物がたくさん

あって、そこで参考になるものがあると思いますが、この21世紀の中盤には、健康指向とか、社会性とか、文化、文明、芸術というものが、その場所に何かしらのことに関わることによって、多くの人がそれを享受したり、あるいはそれを自分たちなりに発動したりする、ということが自然にできるような空間が指向されていて、そういうことを今回の県民会館の設計の中では視野に入れていくべきだと思います。そこが、開放性と言われている部分に追随をされていて、単にオープンスペースがあるのではなくて、どういう開放性、連続性を獲得するかによって、宮城の県民会館が東北一、日本一、世界一のホールになっていけるか、ということが課されていく部分もあると思います。そうすれば、先程お話のあった、宮城は、仙台は強みがあるということが実質的にも、思想的にも担保されていて、この県民会館をつくった価値と意味というのが後世にきちんと残せていけるとと思いますので、その部分が主題の中にきちんと今後の展開として記載されていると、ここで議論している意味もすごく大きな役割を担うのではないかと思います。

【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。実際にこの建替問題というのが議論されている中で、私たちは、今あるマイナス面をどのように改善するのか、改良するのか、強化するのかというところに主な視点を置いて議論をしてまいりましたがけれども、同時に中田委員がおっしゃるのは、どういう劇場文化を会館としてつくるのかという視点もきちんと持ちたいというお話かと思います。それは大変重要な指摘だと思います。それでは、この辺で議論をまとめてみたいと思います。

1つだけつけ加えたいと思いますが、この中に機能面で音響反射板というのが入っていなかったと思っておりました。今、新しい会館は相当に音響反射板の性能が高度化しておりますので、今の県民会館の現状ですとどうしても低音域が反射しないので温かい音が出ないということもあるものですから、音響反射板という言葉もどこかフレーズとして一言欲しいと思いました。

それでは、ここの議論を私なりにまとめさせていただきますけれども、異議のある方はおっしゃってください。

皆さん方が2回かけて議論をしたところをまとめていきますと、やはり課題解決の方向性ということで、立地のあり方ということになるようでございます。現県民会館のマイナス面の払拭、機能強化ということで考えていきますと、現地建替はどうやらなかなか難しい、困難であろうということで、移転、あるいは新築というところが集約される共通の認識かなと思うわけでございますけれども、このあたりはそうだとすることでよろしいでしょうか。

では、そのような形で、ここの有識者会議では、現地建替が困難というのが共通の認識ということに整理をさせていただきます。

次に、今ある課題や今後の県民会館に求められる新たな機能への対処を前提に、立地条件として留意すべき点についての御意見を賜りたいと思います。

これにつきましては、交通上のアクセスもありますし、駐車スペースの確保、あるいは仙台市が今計画しているものとの棲み分け、街中以外、あるいは街中で整備

する場合の留意事項などについて御議論をいただければと思います。これについてはいかがでしょうか。はい、どうぞ。

【天沼ひかる委員】

仙台市のほうは、既に候補地みたいなものが決まっているのでしょうか。

【事務局 鈴木消費生活・文化課長】

仙台市では9か所の候補地を挙げまして、今年度、立地に関する検討を進めております。その中で、現在は公園の敷地なども候補地には挙がっていますが、場所の選定については、来年度に具体の検討に入られると伺っております。

【天沼ひかる委員】

すみません、9か所の特徴というのは何かありますか。例えば、9か所全部が駅に近いとか、仙台駅から何分ぐらいで行けるとか、何かそういったものはありますかでしょうか。

【事務局 鈴木消費生活・文化課長】

新聞報道等で拝見しますと、仙台の西公園というのが、仙台の中心部から西側に行ったところ、広瀬川の手前に西公園地区というのがございます。そちらの地区、あるいは国際センターは御存知でしょうか。

【天沼ひかる委員】

地図で拝見しました。

【事務局 鈴木消費生活・文化課長】

国際センター周辺地区でございます。それから、7か所のうち2か所は民有地を候補地として挙げているということですが、そちらの具体の場所は非公表となっております。

手元に新聞記事がありますので、具体的に申し上げます。

1か所目が、仙台青葉山交流広場というところでございます。こちらは、仙台国際センターの北側でございます。続いて、青葉山公園、こちらは、市の博物館の南東方面でございます。それから、西公園は3か所ございまして、市民プール跡、市民図書館跡、お花見広場でございます。西公園は3か所、これで5か所です。それから、勾当台公園の東側、錦町公園、これで計7か所。ほかに民有地が2か所です。

位置関係を確認するためには、参考資料の図1あたりが参考になるかと思えます。その一番左側のほうに西公園というのが出てまいります。ちょっと国際センターの部分は切れております。

今、参考資料の図1を御覧になっていただいておりますが、基本的には仙台駅が中心にございます。その西側、西公園近辺の候補地が5か所、県庁周辺の勾当台公園東側、それから錦町公園が候補地となっております。あと民有地の2か所につ

いては、公表されておられません。

【座長：志賀野桂一委員】

よろしいでしょうか。

今の答えに対して何か御意見はございますか。天沼委員，よろしいでしょうか。

【天沼ひかる委員】

はい，大丈夫です。

【座長：志賀野桂一委員】

ほかに何か御意見はございますか。

【天沼ひかる委員】

基本的に9か所まで候補地があつて，これから絞られるということになりますと，その2千席のホールがどういった距離感であつたらいいのか，そのあたりについてはかなり難しいという大きな問題だなと思ひました。私のほうは何も情報を持っていなかったのて今お聞きしてしまひましたが，どういった観点から，逆に離れるべきだと思ひますけれども，その機能，お客様の移動のことを考えると，例えば仙台の駅から何キロ圏内にあるべきか，何かそういった方向性があるのかどうかという点はちょっと知りたひと思ひました。

【座長：志賀野桂一委員】

今，現状の場所で建替困難というだけの話でござひますので，今度はどこという話はまた別の議論になつてくるので，そこは議論されてないし，情報もないわけです。

ですから，今のお話としては，今，仙台市の建物が主に西のほうだとすれば，それから離れたほうがいいのか，集中したほうがいいのかという議論はできると思ひます。逆に，機能を棲み分けするとすれば，外国の例なんかで言えば分散じゃなくてエリアに集中しているといったこともあるわけで，どういふ議論をしたいのかということですから。

【天沼ひかる委員】

はい，わかりました。

【片山泰輔委員】

1点，よろしいですか。

【座長：志賀野桂一委員】

はい，どうぞ。

【片山泰輔委員】

まだ、どこの場所ということでは具体的なことが議論できる段階ではないと思いますが、ホールが持つ機能ということから考えると、先程中田委員からまちとの関係が大事だという話がありましたけれども、例えば最近注目されているところで、いわきのアリオスとか可児のホールとか、それこそ高校生が用事がなくても勉強しに来るとか、そういう場になるというのが新しい広場としての劇場ということで注目されています。ただ、アリオスにしても可児のアーラにしても基礎自治体が設置するホールなので、コミュニティの中心ということではいいと思います。

しかし、やはり県が設置するものだと、コミュニティの中心というのとはちょっと違うと思います。要するに、コミュニティの中心だと仙台市民しか来られませんから、それは仙台市がやればいいことです。県がやるということになると別な拠点性というか、まちとのつながりを持たないといけないと思います。

そのときに、県内全体、あるいは東北全体から人が来るということを考えると、観光需要と結びついたような立地というのは必要になると思います。外国から来る人も含めて全国的に、仙台あるいは東北の観光に来るような人たちが注目する、立ち寄りやすいような場所、例えば神奈川芸術劇場とか神奈川県民ホールは山下公園のところであって、観光客とかそういう人たちも行きやすい場所です。それから、愛知の芸術文化センターも栄にあります。その点、失敗しているのが埼玉の彩の国さいたま芸術劇場で、あれは住宅街の中にあります。

ですので、市のホールであれば住宅街にあってもいいと思いますが、県のものということで考えると、観光客とか商業的な集積とかがあるような立地というのが必要です。土地を確保するのも大変なので苦労は多いと思いますが、でもやはり拠点性のある、集客性のある場所という立地を前提に検討していくことが重要ではないかと思いました。

【座長：志賀野桂一委員】

今のお話は誘客性というところ、誘客性のある交通立地、交通アクセス、そういったことが大事じゃないかというお話でございました。

でも、実際、彩の国は小ホール系なので、あれはあれでまた別な路線になります。相当に大きいホールで色々なところを集めるというよりは、もっとコンテンツで集めるということなので、この議論のモデルにはちょっとならないと思います。

はい、どうぞ。

【佐藤寿彦委員】

今の県民会館は、3,600㎡ぐらいです。僕は会議で検討や課題とか色々な話を皆さんから伺っていて考えました。様々な意見の全部を入れると、恐らく現在の3倍、4倍の敷地が必要ではないかと思います。そうすると、それがこの資料の地図を見ると、大きな敷地はどこにあるのだろうかと思います。仙台駅に近いとなると榴岡公園などになってきますが、経済性を考えるとなかなか難しいのではないかという気がします。ですから、お金なのか何なのか、どこに絞ってやるかというこ

とを総合的に考えないと、僕は難しいのではないかという気がしております。

我々の業界の話ばかりで恐縮ですけれども、我々の業界のやっているコンテンツは、会場の場所はどこでも大丈夫です。ちなみに、週末にやるサザンオールスターズのお客さんは大体40歳代～70歳代の方々が中心です。「グランディ21は何であんなに遠いんだ」という方が多くいらっしゃいますが、この週末に1.8万人の方がバスや電車、自家用車で来ます。県外からもたくさんの方々が駆けつけます。また、現在の県民会館で劇団四季の長期使用があり、我々が使用できなかった場合、我々はイズミティという地下鉄の最終駅で開催したり、最近では長町の仙台PITや荒井のライブホール（両ホールともスタンディングで1,500人程度収容）で開催しています。仙台サンプルザホール（2,000人程度収容）でも開催しています。

ですから、多くの県民が開催を望んでいる、人気のあるアーティストの公演開催や体験は、建設場所ではなくキャパシティが一番重要です。遠方に建設する場合は、多くの駐車場設置で解決できます。以上です。

【座長：志賀野桂一委員】

今のような意見がありますし、それから駐車場ということに関してはいかがですか、佐藤寿彦委員。駐車場は色々苦勞されていると思いますけれども。

【佐藤寿彦委員】

個人的には、公共交通機関のない遠方の会場であれば、キャパシティの7割は台数が欲しいと思っています。ちなみにグランディ21とは、グランディ21がライブ会場として貸し出すと決定した頃から色々と協議を重ねてきました。多くの催事を経験させていただき、たくさんの方々のノウハウをお互いに構築できたと思います。

新しい県民会館の場所がどこになるか分かりませんが、公共交通機関がないエリアでもそれ相当の駐車場を用意すれば、逆に何の問題もなくうまくいくのではないかと思います。もちろん、公共交通機関がある場所では、キャパシティの7割の駐車場設置は必要ないと思います。

【座長：志賀野桂一委員】

2千席だとすると、1,400台は欲しいということですか。

【佐藤寿彦委員】

1,400台ぐらい欲しいです。

【座長：志賀野桂一委員】

都心部であれば駐車場はほとんどないというホールもたくさんあるわけですし、郊外のアクセスの悪いところであれば車ということになるでしょうね。ですから、その辺のことは、立地条件によると考えてよろしいのかと思います。

【佐藤寿彦委員】

もちろんです。

【座長：志賀野桂一委員】

ええ、そうですね。7割マストと言われると大変だなと思いました。どこにもできないかもしれないということになると思います。

はい、どうぞ。

【中田千彦委員】

特にアメリカの地方はそうですけれども、車に依存して動き回るということも一つあります。しかし、仙台というのはそれなりに、潤沢ではないですけれども、地下鉄があったり、バスサービスがあったり、タクシーもあったりするので、そういった公共交通できちんと人を流動させるということが出来る場所を一つの視野に入れるべきではないかと思っています。

私は時々身内を連れてグランディ21に行きますけれども大変です。皆さんは一つの目的があって、それに専念されて行くので達成感につながっていると思います。一方で、県民会館はそういうエンスージアストだけじゃなくて、ふいにチケットがあったから買って見に行こうとか、駅に案内があったから寄ってみようかという人が交流人口の要になっていくかもしれないので、行くためのハードルが非常に高いというのは、そこで機能としての多くの魅力を失う可能性が高いのではないかと思います。そういう意味では平たく言えば、地下鉄があるとか、バスの運転があるとかというところがやはり一つの候補になっていくべきではないかと思っています。

そして、そういったところで横のつながり、縦のつながりができていきますと、ほかの施設との関係としても何か健全化されていくような気がしますし、そうしますと今度はインフラとしての公共交通機関の体質改善というのが当然課されるようになってきて、だんだんそれが今のちょっと閉塞感のある地方の公共交通機関のブラッシュアップにつながっていく部分も、意識しなければならないのではないかと思います。そういうことで考えますと、平たく言えば地下鉄の駅に近いとか、そういうことが一つの大きな要因になり得るのではないかと思います。

【座長：志賀野桂一委員】

はい、わかりました。

それから、今は主にアクセスの話ということでしたけれども、今の県民会館ではないところにできるとなれば、その機能面の充実というか、あるいはもう少し改善するための一助としての展開というところで、佐藤淳一委員、何かありますか。

今、県民会館の附帯的な施設なり何なりで困っているというところで、その辺りの議論もできるのではないかと思います。樋渡委員の小ホール論ではないですけども、リハーサルだとか、何かそのような関係の部分というのはありますか。

【佐藤淳一委員】

やはり、舞台の広さと同じスペースのリハーサル室が備えられていたり、普段から公演の前に1週間ぐらい使えるような形にできたり、あとは時間もありません。演劇なんかも24時間使いたいというようなときもあるでしょうから、そういったところは自由にといいますか、様々な希望に沿った形でできるように考えていただけると、使う者としては大変ありがたい施設になると思います。

【座長：志賀野桂一委員】

どんなイベントをやっても、楽屋の不足はいつもありますよね。

【佐藤淳一委員】

そうですね。

【座長：志賀野桂一委員】

どうですか、今の県民会館は。

【佐藤淳一委員】

今の県民会館の楽屋は、とにかく数が少ないのと、すぐ脇をトイレの水が流れているような雰囲気がありまして、これからステージに上って行って、やるぞというそのモチベーションが必ずしも上がらないというところで、もう少し気持ちが豊かになるといいなという思いは持っています。数は幾らあってもいいと思います。ちょっと言い方が変ですけども、今の数よりは整備された形のほうありがたいと思います。

【座長：志賀野桂一委員】

樋渡委員、この辺のことについて何かありますか。

【樋渡宏嗣委員】

楽屋の話で言えば、今の宮城県民会館は迷路みたいですね。オペラの方は衣装が大きく重かったり、あの通路の幅と段差があったり階段があったりとかしますので、楽屋で控えているということはなかなか時間がないというか、袖でもう待機していないと間に合わないということが出てくると思いますので、先程おっしゃったように演者がきちっと気持ちを整えていざステージに臨もうという雰囲気が、今の会館では望めないのかなと思います。ですから、使う側も、楽屋から袖までは一直線で行けるのが一番いいので、そういう面積を持ったスペースのホールになればいいかなと思います。

【座長：志賀野桂一委員】

はい、どうぞ。

【片山泰輔委員】

設備の機能面ということでいいますと、先程大ホールに関して、自主制作は基本的にはやらずに、ということで申し上げましたけれども、中小のホールに関しては、基礎自治体との連携などを考えると、やはりある程度の自主制作機能を持つ必要があって、そのためには本格的なたたき場までは無理かもしれませんが、ある程度制作のためのスペースというのは確保すべきだと思います。彩の国さいたま芸術劇場とかいわきのアリオスほど大きなものは無理かもしれませんが、ある程度自主制作を大道具、小道具から衣装まで含めてやれるような機能というのはあったほうがいいのではないかと思います。ただし、グランドオペラをつくったり、大ミュージカルをつくるどころまでは求めない、くらいの規模感というイメージを持っています。

【座長：志賀野桂一委員】

たたき場というのをちょっと解説していただけますか。

【片山泰輔委員】

大工仕事をして道具をつくったりする場所です。

【座長：志賀野桂一委員】

大道具、興行系でも相当大がかりな舞台装置とかを運び込みますよね。あの辺の逃げ場とか運び込む場所ですか。

【佐藤寿彦委員】

すごく大変ですよ。ですから、もう会館の舞台の大きさなどに合わせるしかない状況です。残った機材はトラックに積んでおきます。

【座長：志賀野桂一委員】

そこで作ることはしないということですね。

【佐藤寿彦委員】

ほとんどありません。ただハコと電源があればいいという考え方でやっているみたいです。余り期待はしていないと言ったほうが早いです。

【座長：志賀野桂一委員】

はい、どうぞ。

【中田千彦委員】

もしかしたら、今のセッションの趣旨とずれてしまうかもしれませんが、今まで2千席というのは大ホールという話があって、今、片山委員から、例えば小ホールとか中ホールの併設みたいなことが、今回の方向性の中で視野に入ってくる

かどうかがちょっと気にはなっていました。

県民会館の機能の単純なアップグレードであれば、大ホールだけで興行中心でやるという考え方も整理できるかと思いますが、やはり新しく文化芸術の中心地としての県の施策の一環としてやるとなると、県民が何かしら積極的に芸術に関わるような場面をつくっていくということ、ただ鑑賞者じゃなくて、小ホールならば小ホールで自作してみるとか、それが発展して、隣り合った大ホールとの関係性の中で、すごくきらびやかに見えていくといった刺激心になるようなものというのは、想定されるのかなと、今お話を聞いて思っていましたけれども、そういう伏線のこととも考えるべきではないかというのが一つあります。

それから、もう一つ、連続性でいうと、今の県民会館の場所というのが、結果的に定禅寺通とせんだいメディアテークと、あとはその連続する公園とかとのシームレスなつながりができつつあるところで、そこにはある種のほかの文化的な機能との連続性というのが徐々に見え始めているところだと思います。ですので、それは今回もし移転をしてしまうとすると、その連続性というものが一旦切断されてしまうことになると思いますので、新たに設ける場所においても、例えば非常におおらかな公園であるとか、スポーツ施設であるとか、芸術系の美術館とか博物館とかそういったものが隣接し、それが単に隣同士のお隣さんではなくて機能的に、意味的につながっていくような、ランドデザインを展開できるような場所が求められるのではないかと今の議論の中で感じていたところもありましたので、その視野を含めて適地ということを検討できれば、この議論が少し将来につながるのかなと思っています。

【座長：志賀野桂一委員】

私が問いかけていますのは、大ホールのあくまでも附帯の論議ということであります。と申しますのも、それも含めて考えるとまた命題が少し違ってきまして、小ホール論というのをやりますと、これはキリがなく色々な話があります。そうしたときに、小ホールというのは色々な設備とかを考えますと、大ホールと同じぐらいかかってしまうことがあるわけです。ですから、そういうことまでも政策判断をするのであれば、そういうことで逆に問いかけていただければと思いますが、そうではないとすれば、そこはすっぱり切っておかないとかなり大変なことになると思います。

だから、有識者会議としては、そういうことがあるとすればどのぐらいプラスで、1.5倍かかります、といったことが分かっているのであればそういう提示をして、そこで政策判断を県がなされればよいというようなつもりで、周辺の議論も一応しておいたほうがよろしいかなと、こういうことで申し上げております。

【佐藤寿彦委員】

場所の問題で色々申し上げますが、開放性の話にもなりますが、ドイツでは天然芝のサッカー場が、300か所、3000か所、ちょっと数字を忘れたので事務局で調べていただきたいのですが、サッカーの試合がなくてもみんなそこに、子供

たちとかおじさんとか集まって、ミュージアムを見たり、ゴルフの話をしたり、音楽や芝居の話をしたり、色々なコミュニティがあるそうです。すごくいいなと思っていまして、新しい県民会館もそうなるかと素敵ではないかなという気がしています。芝居やライブがなくても人が集まっている。そこで、宮城県内の物産などを販売することも素敵だなと思います。

繰り返しになりますが、仙台駅から遠くなればなるほど、敷地の関係などでたぶん何でもできるようになる、大ホールと小ホールを兼ね備えた新しい会館もできると思います。小ホールの話が出たのでちょっとだけ自分の意見を申し上げますと、2千席以上の座席があるホールがあつて、小ホールの代わりに隣にハコだけの、雨風しのいで、震災時には携帯の電源も充電できて、みんなが2日間ぐらい泊まれるようなスペースをつくって、そこで芝居でもいいでしょうし、コンベンションでもいいでしょうし、ライブでもいいでしょうし、そのようなハコだけの施設があつてもいいと思います。開放的なことのコンセプトに合うのであれば、日本ではたぶんそういう施設がないのでおもしろいかなと思います。

建設コストで言えば、5,000人ぐらいの立って見るようなハコであればおそらく30億円程度で十分できます。ライブができたり、映画もできたり、美術館もできるかもしれませんし、色々な開放性のあることができるのではないかと思います。以上です。

【座長：志賀野桂一委員】

ありがとうございました。だいぶ話が膨らんだところですが、この辺でまとめていきたいと思っておりますけれども、何かありますか。はい、どうぞ。

【天沼ひかる委員】

2千席ということで大きいホールのお話から始まって、その場所というところまでですけれども、そもそもホールが大中小というように一般的にありますけれども、小じゃなければできないこととか、中にふさわしいこととかがそれぞれありますので、もちろんそれが全部あれば理想的というところから、場所がないのでそぎ落としていこうということになって、今は小と大しかないところというのが多いと思いますが、札幌とか、堺のフェニーチェとか、高崎劇場も中ホールが確かにないです。

ですので、そういうふうに絞っていくということで、大きいホールしかなかったらというような想定はどちらかというところ、県民の方も使うとか色々な面から考えるとちょっと私は厳しいのではないかと思います。一般市民の人たちとかそういったことも含めて、県がその中心になってやっていく中では、大きいホールだけというのではなかなかちょっと機能しづらい部分を実質あるのではないかと思います。色々な御意見はあると思いますが、私自体は現場として、県の中で色々と連携して事業をやらせていただいたり、劇場でしておりますので、やっぱり大は小を兼ねますけれども、例えば横須賀芸術劇場が1,800人で、それで全てが賄えるわけではございません。

それで、小はやはりあります。あればそこで本当に、お芝居から含めてまちのピ

アノの発表会から何でもできるので、それは劇場の中のつくりをどのようにするのかということはかなり大きく違いますから、敷地の問題とか色々あるにしても、そもそも劇場ということを考えてときに、サイズの多様性というのは大事にしたほうが、するべきじゃないかなと常々思っています。

【座長：志賀野桂一委員】

天沼委員の御意見は分かりますけれども、そもそもというところがあって、膨大なあの厚い需要調査報告書に戻っていただきますと、それを必要とするということにはなっていないのです。つまり、それはもうこの市は満たしている、ということでこの議論が始まっておりますので、それはちょっと全体の話になると思います。

ですから、これはもちろん県民会館ですので、県がお考えになればいいわけですが、市域というかこのあたりの需要、需給、あるいはホールの人当たりの席数とかそういうのを調べたこともあります。そういうことからすると結構この地はホールの席数としては多いわけ。そういうこともあるので、いわゆる複合という意味ですか、おっしゃりたいのは。

【天沼ひかる委員】

そうです。話がまた広がってしまって申しわけありませんが、先程おっしゃっていた、例えば県の会館が貸館を中心に、人材の育成とか、教育的にもそういうプログラムをつくっていかうというのは、要は借りてくれる人に全て頼ってしまうことになるので、いわゆる舞台芸術とかそういったことを基にして何かをつくっていくというところについては、実はちょっと難しいのではないかなと、私はそう思います。

財団ですとかそういった公のところ、いわゆる利益とかそればかりに特化しないで動けるそういった組織がある上で、市民の文化活動を始め、それ以上に劇場に来る、劇場で楽しめるということが、いわゆるその興行だけではない部分でも皆さんが享受できる、というようなことを目指していないということであれば、それは一つのやり方ですけれども、逆にそれが成功している例もあるので、それをどのような形で目指していくかということはあると思いますが、ちょっとそこで、今、私のほうは勝手に頭の中で、そのサイズの2千席というのと貸館ありきでという、そもそもその上のところがどういうベースにあるのかというのが、ちょっと分からなくなってしまったので、迷い事を言っているかもしれませんが。それについてはまた別ということですね。

【座長：志賀野桂一委員】

それは、もう少し別の議論であると思いますので。

まとめさせていただきたいと思いますが、まずは今日の命題というのは、今ある県民会館の現状、機能を見たときに、現状の場所で建替ができるのかどうかというようなことを主に議論をしてきたと思います。これにつきましては、これまでの議論を踏まえますと、現地での建替は困難という認識で一致はしているという

ことになります。

それで、その次の展開というのは、これからの議論ということになるかと思えます。その中では、今、天沼委員のおっしゃったような議論も出てくる可能性がありますし、それは政策判断もありますから、どの程度のスペックを整備するのかしないのか、予算の関係等も色々加味して検討していくという事項になるかと思えます。

今日はそのようなことでまとめをさせていただきたいと思えます。

では、事務局にお返しをしたいと思えます。

【事務局 後藤環境生活部長】

それではその前にちょっと、今まとめていただいた件に関して事務局としてのコメントですけれども、1回目で全体に関する様々な御意見をいただきまして、今回、2回目は大ホールを中心にして、その備えるべき機能とそれが現地で可能なのかどうかという部分を中心に御意見をいただきました。

また、1回目でもいただいた御意見の中には、小ホールの必要性であるとか、ソフト面の必要性であるとかという御意見もありましたので、我々としてはこの1回目、2回目を踏まえて、3回目、4回目あたりで全体としてどういうあり方が県民会館として必要なのかということをお話しさせていただきたいと思っております。今回は大ホールを中心にした機能性と整備の方向性という形でまとめていただいたという認識を我々としては持っております。

【座長：志賀野桂一委員】

はい、そのとおりです。

【事務局 後藤環境生活部長】

今後の議論の展開をよろしくお願いしたいと思えます。

(議事終了)

8 その他

事務局から次回の会議開催の連絡をした。委員からの質疑はなかった。

以 上